



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

- 11日** 北朝鮮が週末にミサイルを発射しなかったことを受けて、地政学リスクへの過度な警戒感が後退。ハリケーン「イルマ」が勢力を弱めたことも投資家心理の改善につながり、ドル円は一時109.507円まで値を上げた。
- 12日** ドル円はポンド円やNZドル円などの上昇につれて、海外時間から買いが優勢に。株高や米長期金利の上昇も支えとなり、一時110.254円まで上昇した。
- 13日** ドル円は利食い売りに押されて109.911円まで下げたものの、その後はトランプ米政権の税制改革に対する期待からドル買いが強まるなか、一時110.691円まで値を上げた。
- 14日** 8月米消費者物価指数(CPI)などの経済指標が強い結果となったことで、ドル円は一時111.039円まで値を上げた。もっとも、その後は北朝鮮のICBM発射についての報道が相次いで伝わったことが重しとなり、110.072円まで上値を切り下げた。
- 15日** 北朝鮮がミサイルを発射したことでドル円は109.556円まで下げたものの、その後は株高などを背景にショートカバーが優勢となった。ポンド円などの上昇につれた買いも入り、一時111.334円まで反発した。
- 総括** 先週のドル円は買いが優勢だった。北朝鮮が週末にミサイルを発射せず、地政学リスクへの過度な警戒感が後退。週明け11日は上窓を開けてスタートした。ハリケーン「イルマ」の被害が想定より小さいとの見方も買いを後押し。株高や米長期金利の上昇とともに12日には110.254円まで上値を伸ばした。13日は「トランプ米大統領は法人税率15%を断固として主張している」との報道や、ライアン米下院議長の「9月25日の週に税制改革の草案を公表する」との発言を受けて、米税制改革への期待から110.691円まで上昇。14日は8月米CPIや前週分の米新規失業保険申請件数が予想より強く111.039円まで買い上げられた。もっとも、「北朝鮮にミサイル発射の兆候」との報道が相次ぐと伸び悩み。ムニューシン米財務長官が「トランプ政権はインフレより経済成長を懸念」と発言すると110.072円まで一転下落した。15日は早朝に北朝鮮がミサイルを発射したことで109.556円まで急落。もっとも、日本株が上げ幅を拡大するとショートカバーが優勢となった。英利上げ観測が高まりポンド円が急伸した影響も受けて111.334円と7月28日以来の高値を更新した。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
12日	17:30	火	GBP	CPI	前月比	8月	-0.1%		0.5%	0.6%
13日	21:30	水	USD	PPI	前月比	8月	-0.1%		0.3%	0.2%
14日	20:00	木	GBP	MPC議事要旨	*	*	*	*	*	*
14日	21:30	木	USD	CPI	前月比	8月	0.1%		0.3%	0.4%
15日	21:30	金	USD	小売売上高	前月比	8月	0.6%	0.3%	0.1%	-0.2%
15日	22:15	金	USD	鉱工業生産	前月比	8月	0.2%	0.4%	0.1%	-0.9%
15日	23:00	金	USD	ミシガン大学消費者態度指数速報値	*	9月	96.8		95.0	95.3

一言コメント・・・英インフレ指標が良好な結果だったことでポンドは大幅高となりました。米CPIや米小売売上高が弱い内容だったためドル売りで反応しましたが、値動きは一時的でした。

先週の注目された要人発言

- 11日16:05クーレECB理事「為替市場のショックはインフレの見通しへの影響として好ましくない」
- 11日19:28ハンソン・エストニア中銀総裁「ECBの正常化はすでに始まっているが、非常に漸進的」
- 11日19:37ノボトニー・オーストリア中銀総裁「緩和策の解除は漸進的かつ明瞭である必要」
- 12日21:39ムニューシン米財務長官「イエレン氏を含む数人をFRB議長候補として検討」
- 15日05:53ムニューシン米財務長官「トランプ政権は経済成長について懸念。インフレについては現時点であまり懸念していない」
- 12日22:52コンスタンシオECB副総裁「ECBは十分な金融緩和を維持する必要」
- 13日20:39トランプ米大統領「過去最大の減税承認プロセスが近く始まる」
- 13日23:24米共和党のライアン下院議長「9月25日の週に税制改革の草案を公表する」
- 14日16:32SNB声明「SNBは必要に応じて為替市場に介入することを約束」「スイスフランは依然として高く評価されている」
- 14日16:33SNB声明「2017年GDP見通しは1%ちょうどを下回る水準となると見込む(前回は1.5%)」
- 14日17:50ヤズベツ・スロベニア中銀総裁「ユーロ高はユーロ圏の回復が強まっていることを反映」
- 14日20:05MPC議事要旨「過半数は向こう数カ月で金融緩和策の削減を見込む」
- 15日00:15カーニーBOE総裁「自分も向こう数カ月で金融緩和縮小を見込んだ1人」
- 15日00:32バイトマン独連銀総裁「ECBは正常化に向けた適切な時期を逃すべきでない」
- 15日03:01ショイブレ独財務相「ECBの出口戦略は非常に穏やかである必要」
- 15日17:50プリハMPC委員「今後数カ月以内に利上げが必要となる可能性」

一言コメント・・・MPC議事要旨やカーニーBOE総裁などのタカ派的な見解を受けてポンドが急伸しました。トランプ米大統領やライアン米下院議長の発言で税制改革への期待からドルが買われました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
20日	23:00	水	USD	中古住宅販売件数	件数	8月	544万件		546万件
20日	27:00	水	USD	FOMC後政策金利発表	*	*	1.00-1.25%		1.00-1.25%
20日	27:30	水	USD	イエレンFRB議長、定例記者会見	*	*	*	*	*
21日	7:45	木	NZD	GDP	前期比	4-6月期	0.5%		0.8%
21日	*	木	JPY	日銀金融政策決定会合後政策金利発表	*	*	-0.10%		-0.10%
21日	*	木	ZAR	SARB政策金利	*	*	6.75%		6.50%
22日	21:30	金	CAD	CPI	前月比	8月	0.0%		0.2%

今週の注目は・・・FOMC

GIweekly今週のマーケットポイント [限定版]は

『ひまわりFX WEB』にログイン後の
「マイページ」にてご覧いただけます。

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - エマージングウオッチ

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。